



数字から経営を見直し、 収量も、未来も、確かな手応えへ

「担い手コンサルティング」は、生産者に寄り添い、経営の現状を丁寧に見つめ直し、JAグループの総合力で課題解決を支援する取り組みです。利用した生産者とサポートしたJA担当者、それぞれに想いや成果をうかがいました。



代表取締役
横井 清一郎さん（写真中央）
株式会社 清耕園ファーム
糸魚川市東海107-1
平成25年3月1日設立

生産品目

水稻・枝豆・メロン・サツマイモ・
トウモロコシ・ブドウ



代表の横井清一郎さんが平成4年にJAを退職して就農し、平成25年に会社設立。現在は32haでコシヒカリ、新之助を栽培している。近隣で生産されていなかったマスクメロン、シャインマスカットなども手掛ける。生産物は100%直接販売しており、販売先は個人消費者80%、業者（飲食店等）20%。令和5年には敷地内にレストラン「mûrir（ミュリール）」をオープン。農園で作られた米を主役にした料理を提供し、「新潟ガストロノミアワード2026DIAMOND」を受賞している。



担い手コンサルの寄り添いポイント

✓ 水稻の収量向上に向けて

令和6年度のコシヒカリの反収が低く、課題が表面化。近年の高温化などの気候変動に加え、作付面積が年々増えていることから、経営面、営農面からアドバイスを実施。令和7年度は過去最高の収量を記録した。

✓ 品目別に収支を分析

担当税理士の指導で、帳簿付けや決算書作成にはしっかり取り組んでいたものの、それを読み解いて経営に活かすことができていなかった。品目別に収支を分析することで、それぞれに改善していくべきテーマが見えてきた。

数字から経営を見直すいい機会に

日本海と百名山を望み、水に恵まれた農地にある清耕園ファーム。JAえちご上越からの提案で、担い手コンサルティングを知ったという代表の横井清一郎さんは「決算書を分析するのは不得意。今回は自社の経営を見直すいい機会になった」と振り返る。一番の課題は反収向上だっ

たが、肥料計画のアドバイスもあり、令和7年度は過去最高の豊作となって反収もアップ。「最後は人の手が行き届くかが大事なので、雇用する人材が増えた分の売上を作ることができたことは、とてもよかったと思います」と横井代表は話す。



海も山も近く、豊富な水に恵まれた圃場は、標高差が200m近くにもなる

農業に込めた 作り手の想いも大切に

同社の場合、農場内にレストランがあり、周囲に広がる田園風景も価値のひとつ。営農側からは、稲の倒伏にも配慮した上で、反収向上という課題に対する具体的な提案やアドバイスが行われた。

令和7年度は各課題に対して業務を見直し、経営効率化に取り組んだが、今後は基盤強化が目標。横井代表は2年後の65歳で事業承継することを検討していることから、それらの実現に向け数年先を見据えたコンサルティングサポートを続けていく予定だ。



これから
頼りにしています！



プライベートブランド米「ひすいの雫」 レストラン「mûrir（ミュリール）」



中長期的なプランで支援を継続！



JAえちご上越

ひかり支店
融資担当支店長代理
山崎 芳郎さん

営農部ひすい営農センター
課長補佐
五十嵐 健一さん

お客様とは顔を合わせることは多くても、その時の用事が第一になり、経営の深いところまで踏み込めるわけではないので、今回は非常に貴重な機会をいただけたと感じています。農産物や料理で笑顔を届けたいという想い、社はや経営理念にも触れ、皆さんがどれほどの愛情をこめて米作りに取り組んでいるかを知りました。その歩みにこれからも力になっていけたらと思っています。